

「若手ジャーナリスト育成講座」を始めます！ 受講生募集！

文化と地域デザイン研究所代表 松本茂章

【概要】

主催：文化と地域デザイン研究所（非営利な研究団体）（所在地：大阪市此花区）

共催：京都市左京東部いきいき市民活動センター

講師：松本茂章（公立大学教授）（元全国紙記者・デスク・支局長）

対象：大学学部生・大学院生（定員毎回 10～15 人程度）

会場：京都市左京東部いきいき市民活動センター（京都市左京区）

お問い合わせ（事前申し込み制）：journalist.matsumotojuku@gmail.com

【はじめに】

社会や地域に貢献できる「若手ジャーナリスト育成講座」を開講します。受講者の対象は関西等の大学で学ぶ学部生・院生とします。

講師は全国紙記者・デスク・支局長の経験者。「社会貢献」の一環として取り組む非営利な講座です。複数大学の学生たちが一緒になって相互に刺激しあい、切磋琢磨できる場づくりを目指します。

【目的】

講師は自治体文化政策の研究者で、公立大学の教授に加えて、非営利な研究団体「文化と地域デザイン研究所」の代表も務めています。2020年3月には『文化で地域をデザインする』（学芸出版社）を出版し、社会や地域に貢献できる文化的な人材（本書では「地域文化デザイン人材」と呼ぶ）の育成が急がれると指摘しました。このなかには、公務員、財団職員、まちづくり関係者、文化人、芸術家、金融機関職員などに加えて、メディア業界で活躍する人材も含まれると考えています。

これには訳があります。講師は全国紙の記者・デスク・支局長の経験者なので、社会には健全なジャーナリズムが必要で、地域の実情に精通し、社会の課題解決に貢献する人材に活躍してもらいたいとの願いを抱いているからです。「中央」の情報を伝えるだけにとどまらず、「地域」の文化的な情報が日本各地に流通すれば……と夢見ます。記者経験から考えた「イチゴ作文術」をもとに10項目のチェックポイントを設け、作文・小論文の作成をサポートします。これまで複数の大学に依頼され、作文・小論文講座を開催した実績を有します。

【背景】

ここでいうメディア業界とは「新聞・放送・出版・広告」等を意味します。開講する背景は、メディア業界の東京一極集中が挙げられます。首都圏の学生に比べて、西日本の学生には情報面でいくばくかのハンディがあると感じるので、お手伝いをしたいと決心しました。

【活動内容】

2021年秋に4回程度。2022年春に4回程度。集中開催を想定しています。第一に、入社試験等に課される作文・小論文の書き方を助言します。作文・小論文を書く技術は、いかなる業界であれ、どのような入社準備であれ、学生時代に身につけておきたいスキルの1

つ。人数に余裕があれば、メディア業界に限らず、まちづくりの仕事を志望する公務員や一般企業の志願者も受け入れます。第二に、メディアの業界人をゲストに招き、リアルなお話を聞く機会を設けたいとも構想しています。

【開講日】

第1回の講座は、2021年10月9日（土曜）の午後1時から、京都市左京東部いきいき市民活動センターの会議室で行います。その後は授業を終えた平日の夕刻か、授業のない休日（土曜日など）の実施を想定しています。

【参加費】 無料。教材費も不要。

【持参するもの】

講師から指定された「題」で作文・小論文を書き上げ、講座当日に持ってくる。受講生同士が互いに読み合い、コメントを出し合って、自らの文章をブラッシュアップしていきます。濃い目の鉛筆と400字詰め原稿用紙（数枚）も合わせて持参してください。

【会場】

京都市左京東部いきいき活動センター（紅葉の名所・永観堂のすぐ近く）

最寄り駅：地下鉄「蹴上」駅から北に徒歩14分。（南禅寺の境内を北東に歩む）京都を主な会場に選んだ理由は、複数の大学が立地して多様な参加者が見込まれるため。もちろん京都の学生でなくても構いません。大阪、兵庫、奈良、滋賀などからの参加者を大歓迎します。

【受講条件】

大学・大学院に所属する現役の学生・院生であること。（社会人は対象外）。文科系、理科系は問いません。多様な若者が集まることで活発な議論が展開します。

【エントリー】

参加希望者は、研究所の受付メールアドレスに宛て、参加希望の動機と自己紹介を送信してください。メールアドレス：journalist.matsumotojuku@gmail.com

原則として先着順で受け付けます。希望者が多くなった場合、会場に入る人数の都合から、所属大学等が偏らないような工夫を行うことがあります。

【講師からのコメント】

全国紙の記者・デスク・支局長を経験したあと、思うところあって政策系の大学院に進学し、公立大学の教授に転じました。専門分野の研究・教育とは別に、「社会貢献」として、現役学生を支援する場を設けたい——と以前から願っていたところ、京都市の文化施設「左京東部いきいき市民活動センター」のご支援を得ることができ、実現する運びになりました。記者経験を踏まえた「イチゴ作文術」をもとに、作文・小論文の書き方についてコメントします。京都を会場に選んだ理由は、複数の大学が立地する「学都」なので、多彩な層の参加が期待できそうと考えたから。自身が学生のころ、作文塾に参加して元新聞記者の方に原稿を見てもらい、助言をいただいていた。他大学の学生に刺激されながら、インターカレッジで作文・小論文の作成技術を磨いたものです。こんな原体験を有するので、次は「ご恩返しをしたい」と思った次第です。奮ってご参加ください！